

# ボッチャ競技実施要領

## 1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則(令和4年4月1日より実施)によるもののほか、この要領に定めるものとする。

## 2 チーム編成

- (1) チームの構成は男女の区別なく「座位」と「立位」の2人1組とする。
- (2) ボッチャの障害区分「座位」「立位」は、全て投球時の姿勢を基準とする。
- (3) チームの1人は、キャプテンとして試合を行う。
- (4) 座位の選手で、障がいの程度の重い者及びランプ使用者に競技アシスタント(介助者)を1人つけることができる。
- (5) 試合に出場するチームには、コーチを1名配置することができる。

## 3 競技手順

- (1) 競技の準備  
感染対策のため、コールルームは設けない。各チームはオーダーシートをコートで審判に提出した後、コイントスにて投球順序を決定する。
- (2) 投球位置への配慮  
赤ボールを投球するサイドは③の位置、青ボールを投球する再度は④の位置に配置される。コーチ及び試合に出ていない選手は、エンドライン側のコート外で待機する。
- (3) 投球練習  
試合を始める前に、6球のボールと1球のジャックボールを2分以内で投球練習することができる。練習後はそれぞれのチームのコーチや競技アシスタントがボールを回収する。
- (4) エンドとエンドの間の扱い  
エンドとエンドの間では、選手交代と次のエンドの準備が行われる。コーチや競技アシスタントは次のエンドのためのボールを回収し、交代した選手に必要な助言を与えることができる。
- (5) 勝敗  
競技は2エンドマッチで行われ、第2エンド終了時の総得点の高いチームが勝利となる。
- (6) 競技の終了  
競技が全て終了し勝敗が決したとき、審判は選手に勝敗と得点の確認を図り、承諾サインを得る。承諾サインを記入したのち選手はコートから退出する。

## 4 ファイナルショット制度

- (1) 2エンド終了時に同点だった場合は、コート中央のクロスにジャックボールを配置し1球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球したチームを勝者とする(ファイナルショット制度)。
- (2) 投球順序は、タイブレイクエンド開始前にコイントスで決められ、先に投球するチームのジャックボールが使用される。ファイナルショットは、キャプテンが個々のチームを代表して投球する。

## 5 招集

- (1) 招集場所は久留米総合スポーツセンター・サブアリーナ内受付とする。
- (2) 競技開始時間は13時00分とし、各チームは、競技開始時間の10分前までに招集場所に来ること。
- (3) 各チームは全ての選手と道具全て一緒に招集し、競技で使用する全ての用具の検査を受けること。
- (4) 招集場所では選手の点呼を行い、選手は係員の誘導があるまで待機すること。
- (5) 招集時間に遅れたチームは棄権したものとみなし、競技に出場することはできない。

## 6 コーチ、競技アシスタント

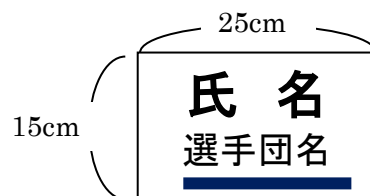
- (1) コーチ又は競技アシスタントとして会場内への入場を希望する者は、あらかじめ主催者の許可を受けなければならない。「コーチ・アシスタント許可証（ビブス）」の公布を受けた者に限り会場内に入場することができる。
- (2) 競技アシスタントは移動すること、方向を変えること、投球することに対して補助するものであって、エンドとエンドの間での助言を除き選手的意思を離れて競技に介入することは許されない。
- (3) エンドの終了が宣告された後、競技アシスタントはコート内を見ることが出来る。ただし、試合の結果に介入することはできない。
- (4) 感染症対策のため、審判員はボールを拾わない。コーチ、アシスタントが自チームのボールを拾うこと。

## 7 服装等

- (1) 服装は、競技に差し支えのないものを着用すること。
- (2) 番号布（ゼッケン）は、審判員が確認できるよう胸部または車いすの前面につけるものとし、白の布地に選手団名・姓を横書きで記入し、本人が準備すること。また、番号布には黒色のアンダーラインを引くこと。

【例】

文字は楷書・黒色で記入すること。



## 8 表彰

表彰式は行わず、試合終了後、メダルを授与する。

## 9 その他

- (1) 競技場内へは、大会役員、競技役員、競技補助員や選手（競技者）及びあらかじめ許可された競技アシスタント、報道関係者以外は立ち入ることができない。
- (2) 競技の結果または行為に関する抗議は、団長または引率責任者を通じて行うものとする。